コミュニティ活動助成

NPO法人 水梨かふぇ

宮城県気仙沼市

廃校校舎を活用した地域コミュニティ×障がい児福祉の拠点づくり

毎月1回、旧水梨小学校で開催する「水梨キッズかふぇ」。体育館はバザーでにぎわう

活動エリア

宮城県気仙沼市の山間部に位置する水梨地区にある小学校跡地を活用する

団体設立経緯

宮城県気仙沼市の水梨地区は、気仙沼市の南西部の山間にある地域です。約400世帯の人々が住んでいるのですが、少子高齢化の例に漏れず、高齢化が進む過疎の地域です。理事長は、地域の高齢の方々の情報交換と親睦を兼ねて「**陽だまりかふぇ**」を実施していました。

その後、地域の小学校の廃校を機会に、子どもたちの居場所づくりとしての「**水梨キッズかふぇ**」を地域の方々と一緒に開催、さらに法人を立ち上げ、障がい児者の通所福祉施設を開設しました。

活動概要と活動対象範囲

●地域コミュニティ活性化のための活動

1）陽だまりかふぇ

水梨地域の高齢の方々の集まりで月2回の開催。参加者は毎回約20人。参加費無料。対象者は水梨地区の住民。

2）水梨キッズかふぇ

水梨地区に子どもの笑顔を増やそうと、月1回、地域の方々と協力して開催。子どもの居場所づくりのための活動。昼食も無料で提供。参加者は毎回約120人。対象は気仙沼市及び近隣の市町村。

●障がい児者通所福祉施設　多機能型事業所いっぽ

1）地域の方々との交流：対象は水梨地区及び気仙沼市内の方々

2）地域貢献：対象は水梨地区、将来的には気仙沼市内

活動の拠点とする旧水梨小学校の校舎

活動に至った理由や背景

2017年に地域内の水梨小学校廃止の方針が気仙沼市教育委員会から発表されました。地元とすれば小学校がなくなるということは受け入れがたいことでしたが、反対するだけではなく「地域に子どもたちの笑顔を増やそう」ということを前向きに考えました。

みんなで考え出したのは、「水梨キッズかふぇ」というイベントです。水梨コミュニティセンターを会場に、子どもの遊び場や様々な体験会にバザー、最後は昼食をみんなで食べて解散、ということにしました。さらに、地域の総意として、地域みんなで取り組むことにしました。それが、NPO法人発足のきっかけの1つになりました。

活動内容と成果

【地域コミュニティ活性化のための活動】

●陽だまりかふぇ

毎月2回、第2・第4火曜日に開催しています。参集範囲は、水梨地区にお住まいの高齢の方々です。お茶やお菓子をいただきながら、親睦と交流を深めます。カラオケや楽器の演奏などもあります。参加費は無料です。毎回20人程度の方々が集まっています。

高齢者を対象とした「陽だまりかふぇ」。この日は水梨地区の住人が琴と尺八の演奏を披露した

22年は新型コロナウイルスの影響で開催を見送ったこともありましたが、その後の陽だまりかふぇには多くの方々が集まり、開催を心待ちにしていたことが分かります。

初期の頃は少ない人数で運営していたのですが、現在では地域の行事として定着していて、地域の民生委員の方々も参加しています。

水梨キッズかふぇで昼食を担当するのは、ここの参加者です。陽だまりかふぇで「どんなメニューにするか」、「材料は誰が持ち寄るか」などということを話し合いました。ベテランの皆さんが作る料理は毎回大好評でした。また、福祉施設いっぽの子どもたちに畑の技術指導や手伝いをしてくださったのも、陽だまりかふぇのメンバーの方々でした。

●水梨キッズかふぇ

「地域に子どもたちの笑顔を増やそう」と考え、毎月1回、第4日曜日に旧水梨小学校で開催しています。運営は当法人だけでなく、地域の方々や水梨地区PTA、ボランティアの方々なども加わっています。

内容は季節の遊び、お正月などの行事に関係したもの、消防車の見学など、毎月趣向を凝らして開催しています。バザーや学習会、読み聞かせなどもあり、昼食には、地域の方々がつくった料理をみんなでいただきます。これも参加料は無料です。水梨地域に限らず、どなたでも参加可能です。約100人の子どもたちが毎回集まります。クリスマス会や餅つきなどは人気が高く、150人くらい集まることがあります。

22年度は、6月26日に3年ぶりの開催。7月24日は準備を整えたものの、直前で開催を断念。11月と23年3月は予定通り無事開催できました。ただ、昼食の提供はどの回も見合わせました。代わりに、子どもたちにおやつを配りました。

地区PTAの皆さんから、「外での活動のために簡易雨除け、日差し除けとなるオーニングがほしい」という声があり、ハウジングアンドコミュニティ財団からの助成で玄関の上に取り付けることができました。6月は日差し除け、11月は突然の雨除けとして大活躍でした。

【障がい児福祉施設の拠点づくりの活動】

●障がい児者通所福祉施設　多機能型事業所いっぽ

高齢の方々を対象にした陽だまりかふぇ、子どもたちが中心となる

（上）みんなで育てた野菜を切って、地域の方々と交流を深める　（中）「いっぽ なつまつり」では、地域の協力を得て金魚すくいや綿アメなどが出店　（下）「放課後等デイサービスいっぽ」で取り組んだ野菜づくり。豊作のミニトマトを収穫

水梨キッズかふぇを開催・運営することはできたのですが、理事長にはまだ取り組んでいない夢がありました。長い間看護師として勤めていたときに、障がいのある子を抱えて1人で苦戦している母親をたくさん見てきました。このお母さんたちの力になりたい。そのために障がい児の福祉施設をつくりたいというのが長年の夢でした。

18年10月に、NPO法人水梨かふぇを立ち上げ、その年の12月に「**放課後等デイサービスいっぽ**」をオープンしました。障がい児福祉施設ということで疑問の声もあったのですが、徐々に理解者は増えていきました。

その後､地域の方々の賛同があって、旧水梨小学校の校舎を気仙沼市から正式に借用して、多機能型事業所いっぽを運営しています。「いっぽ」の中には、地域への感謝の気持ちがあります。

●いっぽの畑づくり

放課後等デイサービスいっぽには、子どもたちが自主的に組織した生徒会があり､「畑で野菜を育てて、地域の方々と交流しよう」という提案がありました。その案は、即採用になりました。

ハウジングアンドコミュニティ財団からの助成もありましたので、みんなで野菜づくりに取り組みました。育てた野菜は、じゃがいも、ミニトマト、トマト、サヤエンドウ、ピーマンなどです。「夏野菜カレーをつくりたい」という希望がありました。また、秋の焼きいも大会のためにサツマイモも植えました。

意欲的に取り組んだおかげで、どの野菜も豊作でした。地域の方々におすそ分けもすることができました。また、ジャガイモは生活介護の方々が毎月1回実施する調理実習の材料にもなりました。な

地域への貢献活動として、デイサービスの利用者がバス待合室を整備。ペンキを塗り、自分たちで育てた花も飾った

お、この調理実習には地域の方が顔を出すこともあり、地域との交流を続けることができました。おすそ分けの返礼もたくさん届き、そのたびに、子どもたちは大喜びでした。

●地域との交流

水梨キッズかふぇが中止になっても、地域の皆さんがいっぽを訪れて子どもたちと過ごすことが多くありました。夏まつりと称してたこ焼きを焼いてくれたり、マシュマロ焼きや綿アメをつくってくれたこともありました。さらには、子どもたちが使う凧を修理してくれた方もいらっしゃいました。とにかく、たくさんの方が当たり前のようにいっぽを訪れています。本当にありがたく思っています。

●地域への貢献

自分たちでできることで、地域に恩返しすることはできないだろうかと考えて、いくつかの実践をしています。放課後等デイサービスでは、散歩の際に、地域内のゴミ拾いをしています。生活介護の利用者は、地区内のバス停をきれいにする活動に取り組みました。掃除をしたり、ペンキを塗り替えたりして、地域の方々から好評でした。また、水梨文化館という地域で管理している建物については、そのお掃除の手伝いも何度か取り組んでいます。自治会長さんがお礼のおやつを持って訪問してくださいました。

また、地域の方々に施設で制作した小物を配布する予定でしたが、ビーズアクセサリーなどを受け取っても「出来がいい」というわけで、いくらかのお礼を置いていく方がほとんどでした。「市の産業まつりで販売した方がいい」という声があり実際に参加してみたところ、想像以上の売れ行きでした。販売で得たお金は、利用者に配布しました。1人あたりにすると数百円の単位でしたが、おそらく、どの親御さんもまさか自分の子が収入を得るということは想像していなかったらしく、人生初の収入を目にしたお母さんたちは一様にうれしがっていました。この小物づくりの材料も、ハウジングアンドコミュニティ財団からの助成で購入したものです。

気仙沼市産業まつりでアクセサリーなどを販売。売上はつくり手である利用者に還元した

課題と解決方策

22年度は新型コロナウイルスの影響で、水梨キッズかふぇや陽だまりかふぇのイベントをフルに開催することはできませんでした。一方で、多機能型事業所いっぽと地域の方々の交流は数多く実施することができました。

ハロウィンイベントでは、仮装して地域のお宅を訪問

地域の方々は、水梨キッズかふぇができない代わりにいっぽを訪れて、子どもたちを楽しませてくれました。また、子どもたちが育てた野菜も地域の方々に喜んでいただきました。この野菜も、水梨キッズかふぇで使う予定だったものを地域との交流に転用したものです。おかげで、いっぽと地域との結び付きがとても強くなった22年度でした。

今後の予定

水梨キッズかふぇと陽だまりかふぇは制限付きの開催でした。今後は、以前のように定期的に開催し、内容もより充実したものにしていきたいと考えています。

多機能型事業所いっぽと地域の方々との交流は計画的ではなく、突然実現することが多かったと感じています。今後は、計画的な交流を開催したいと考えています。

特定非営利活動法人水梨かふぇ

2018年4月設立、同年10月法人化／メンバー数:22人／代表者:秋山 順子（あきやま・じゅんこ）

●〒988-0169　宮城県気仙沼市物倉山6

☎0226-37-4585　www.mizunashi-ippo.com/

私たちは、廃校になった小学校の校舎を活用して、地域コミュニティの活性化を図りながら、障がい児者福祉施設多機能型事業所「いっぽ」を運営し、地域との交流を深める活動に取り組んでいます。